science i PictureBook

Saiensu Creative

JAL旅客機まるごと大百科

写真：チャーリィ古庄　　文：秋本俊二









需要全本请访问 www.ertongboo



SPB-002

http://sciencei.sbcr.jp/

JAL旅客機まるごと大百科

2011年7月25日　初版第1刷発行

著　　者　チャーリィ古庄・秋本俊二
発 行 者　新田光敏
発 行 所　ソフトバンク クリエイティブ株式会社
〒106-0032　東京都港区六本木2-4-5
編集：科学書籍編集部
03(5549)1138
営業：03(5549)1201
装丁・組版　クニメディア株式会社
印刷・製本　図書印刷株式会社

乱丁・落丁本が万が一ございましたら、小社営業部まで着払いにてご送付ください。送料小社負担にてお取り替えいたします。本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写（コピー）することは、かたくお断りいたします。

©チャーリィ古庄・秋本俊二　2011 Printed in Japan ISBN 978-4-7973-6015-8

SoftBank Creative

science-i PictureBook

JAL旅客機 まるごと大百科

学術書章

写真：チャーリィ古庄　文：秋本俊二



SoftBank Creative



TAKE OFF

エアラインや旅客機をテーマに取材・撮影に取り組んだ"成果"は、新聞でも雑誌でもできればカラーページで発表したい。私は常々、そう願ってきました。それも、なるべくぜいたくにページ数を割いてもらって。

旅客機そのものを紹介する企画でも、あるいは新しいテクノロジーを解説する場合でも、私の作品やレポートに「人」が登場しないことはありません。開発にかかわったエンジニアや、運航・整備に携わるスペシャリストたち、そしてその旅客機が発着する空港やフライト中の機内で小さな出会いと別れを繰り返す旅行者たち。それぞれの心情風景を含めた人間描写によって、私は航空の世界の魅力と楽しさを表現してきました。

しかし一方で、いつも痛感することがあります。それは、目の前を飛び立っていく旅客機のフォルムやカラーリングの美しさについては、どう文章で描写しても1枚のすぐれた写真にはかなわないということ。「エアラインや旅客機をテーマにした取材・撮影の成果はカラーページで」と書いたのは、まずは写真で報告し、そこには写らない人々の思い入れや過去の歴史については文章で補完する——そのコラボレーションこそ読者のみなさんに航空の世界を伝える最良の方法だと思うからです。

私が多くの著書をだしてきたサイエンス・アイ新書の編集部から、同じ新書サイズで写真を主体にした「ピクチャーブック」

のシリーズを創刊したいという話があったのは、ちょうど1年前です。そのときに、上記の理由から私はまっ先に提案しました。ぜひ旅客機でやりましょう、と。

第1弾として選んだテーマは、ANAとJALです。過去に国内外の空で活躍し、惜しまれながら退役した伝説の機種から、いまも飛び続ける現役機まで——そのすべてを網羅した今回の2冊に、日本のエアラインの歴史を投影しました。

いいえ、難しいことはいいません。まずは私の最良の取材パートナーである航空写真家、チャーリィ古庄氏の見事な作品をお楽しみください。ページをめくるうちに、あることに気づかれるはずです。それは、彼の作品には高い場所から旅客機を見下ろしたアングルが多いということ。航空写真というと、離陸後や着陸前の機体を青空を背景にして切り取った作品がどうしても中心になります。しかし古庄氏は、美しい機体のバックに、その街やその国の風景を写し込むことをライフワークとしてきました。海外取材をともにすると、彼はよく自分でヘリをチャーターし、空撮にでかけます。私も何度かそのヘリに同乗し、空港に駐機している旅客機も、その土地の美しい景色といっしょに1枚の絵の中に収めることで夢が広がることを学びました。

この本の主役は、私ではなくチャーリィ古庄氏です。一つひとつの機種についてつづる文章の量は極力抑え、彼の作品のためにスペースを確保しました。さあ、そろそろテイク・オフの時間です。いっしょにフライトへでかけましょう。日本を代表するエアライン2社の、過去と現在、未来をめぐる旅へ！

2011年6月　韓国・ソウルにて　秋本俊二

需要全本请访问 www.ertongboo

JAL旅客機まるごと大百科

TAKE OFF …… 2

Chapter1 現役機ラインアップ …… 7

新鶴丸デビュー …… 8
初心に立ち返る象徴として …… 11
どっしりした安定感とスピード …… 12
ボーイング777 …… 14
-200ERが成田／北京線でデビュー …… 16
JALの贅をきわめた-300ER …… 17
環境にもやさしいハイテク機 …… 18
タイプで異なる主翼形状 …… 20
国内の主要都市をネットワーク …… 22
世界で出会うJALの777 …… 26
ボーイング787 …… 28
急ピッチで進む最終組み立て作業 …… 30
「太陽のアーク」から「鶴丸」へ …… 33
ボーイング767-300 …… 34
国際線の主力機として …… 36
もっとも息の長いJALフリート …… 40
ボーイング737-800 …… 44
国内から中国、ベトナムまで …… 49
ボーイング737-400 …… 51
エンブラエルERJ170 …… 54
絶妙なキャパシティ …… 56
ボンバルディアCRJ200 …… 58
ボンバルディアDHC-8 …… 62
日本一距離の短い定期便 …… 66
SAAB340 …… 68
JALグループ最小のフリート …… 71
Column 世界最大のサイズ&パワー …… 72

Chapter2 JALグループの翼 …… 73

JALエクスプレス …… 74
初期のカラーリングには個性も …… 76









日本トランスオーシャン航空 …… 78
女性パイロットも誕生 …… 80
ジェイエア …… 82
スーパー31は2003年に退役 …… 84
日本エアコミューター …… 86
福岡から奄美大島への旅 …… 88
琉球エアーコミューター …… 90
北海道エアシステム …… 92
フジドリームエアラインズ …… 95
Column 愛称で呼ばれたJALフリート …… 96

Chapter3 歴代パートナー …… 97
JALウェイズ …… 98
JALカーゴ …… 100
日本アジア航空 …… 102
日本ユニバーサル航空 …… 104
日本エアシステム …… 106
虹が渦を巻くボーイング777 …… 111
個性が際立ったDC-10 …… 112
A300はレインボーの原点 …… 114
MD-90は「七人の侍」カラー …… 118
細身のMD-81／87は3色塗装 …… 120

かつてはJASカラーのJAC機も …… 122
JASの特別塗装機 …… 124
ハーレクインエア …… 126
Column 昔はCAが着物姿でサービス? …… 128

Chapter4 空を彩るカラフル塗装機 …… 129
Column 世界で1台だけの自動機体洗浄機 …… 142

Chapter5 伝説の名機たち …… 143
ボーイング747 …… 145
747-400と747-400D …… 148
豊富なバリエーション …… 150
貨物専用型ジャンボ機 …… 154
マクドネル・ダグラスMD-11 …… 156
世界の空で10年間活躍 …… 158
ダグラスDC-10 …… 160
高性能エンジンで騒音も抑制 …… 162
ボーイング767-200 …… 164
ボーイング767-300F …… 165
エアバスA300-600R …… 166
東日本大震災後にふたたび活躍 …… 168
マクドネル・ダグラスMD-81/87/90 …… 170
エンジンで見分ける新旧型 …… 172
ダグラスDC-8 …… 174
Column 退役したジャンボ機はどこへ? …… 176

Chapter6 ワンワールド …… 177
JALの選択 …… 178
加盟5社が日本に就航 …… 180
ネットワークの旅で楽しさ倍増 …… 182
JALカラーリング変遷史 …… 184
LANDING …… 188

参考文献 …… 189
索引 …… 190



Chapter 1

現役機ラインアップ

あの“鶴丸”の機体が復活した。生まれ変わったJALの「初心」と「再生」を表すシンボルとして。その新デザイン機を筆頭に、ボーイング777や767、737など日本の、世界の空で活躍を続ける現役機を紹介しよう。



新鶴丸デビュー

JALの鶴丸がリニューアルして復活を果たした。

かつてはJALの代名詞でもあったその鶴丸が新たにペイントされる初号機となったのは、国際線用のボーイング767-300ERだ。羽田のハンガーで塗装作業を終えた機体は、2011年2月28日の午前、報道陣の前にその姿を披露した。

真っ白なボディには、力強く太めに描かれた「JAPAN AIRLINES」の新しいロゴマーク。この新造機は同日午後、鶴丸復活を記念したチャーターフライトとして、日本を代表する鶴である「タンチョウ（丹頂）」の郷として知られる北海道・釧路へ向かって羽田を飛び立った。



同じ白のボディでも、これまでの塗装はクリーム色が少し入ったオフホワイトだったが、新鶴丸塗装から真っ白に変わり、社名とロゴが入っただけのシンプルなデザイン。鶴丸の復活に40代以上の人からは「懐かしい」という声も多く聞かれる





需要全本请访问 www.ertongboo


JAPAN AIRLINES
JAL
JAL
JAPAN

鶴丸塗装機はまだ少数のため、それほど空港で見るチャンスは多くはないが、今後日本の大空港には鶴の尾翼がずらりと並ぶ時代がふたたびやってくる



初心に立ち返る象徴として

2010年の経営破綻から1年、新生JALの一歩を踏みだす新しい象徴としてのロゴマークが発表された。

日本古来の鳥で、和を代表する文様の一つである「丹頂鶴」をモチーフとした、伝統の鶴丸マークの復活である。

その発表の席で、JALの大西賢社長は「過去への回帰や復古調のしるしではない」と強調。JALの原点、初心をあらわしたものであること、新生JALをつくっていく決意を込めたものであると説明した。

どっしりした安定感とスピード感

さて、新しい鶴丸デザインに注目してみよう。

新鶴丸は、旧鶴丸と比較して翼の切れ込みが深くなっている。白抜きのJALの文字は太い斜体を採用し、どっしりとした安定感とスピード感を増した。この新ロゴのデザイン制作は外部に頼ることなく、すべて社内で行われたそうだ。

新ロゴがペイントされた最初の1号機は、2011年2月に受領した新造機のボーイング767-300ER。既存機には定期的に行われる重整備の際に塗り替えが実施されていく予定で、今後約200機のJALフリートに新しい鶴丸が描かれていく。







新鶴丸機は国際線仕様のボーイング767でデビュー。その後JALエクスプレスの737-800にペイントされ、大型機777と続いた。今後はグループ会社も含めて、さまざまな機体が塗り替わっていく



現役就航機材として最大の大きさ、最長の航続距離を誇るボーイング777型機。長距離国際線から国内幹線まで、200型、300型、長距離用200ER型、300ER型とバリエーション豊かな機材が就航中（撮影地：成田空港）

ボーイング777

1996年にJALが、翌97年にはJALに統合された当時のJAS（日本エアシステム）が相次いで777を就航させ、日本での“トリプルセブン”時代は本格的に幕を開けた。経営再建に向けて機材のダウンサイジングを進めるいまも、777は国内・国外を問わずJALネットワークの最前線を飛び続けている。



機種	全長	全幅	全高	標準座席数	巡航速度	航続距離
777-300ER	73.9m	64.8m	18.58m	292席	905km/h	12600km
777-300	73.9m	60.9m	18.5m	470席	905km/h	3210km
777-200ER	63.7m	60.9m	18.5m	268/302席	905km/h	8200/12600km
777-200	63.7m	60.9m	18.5m	389席	905km/h	4740km

需要全本请访问 www.ertongboo